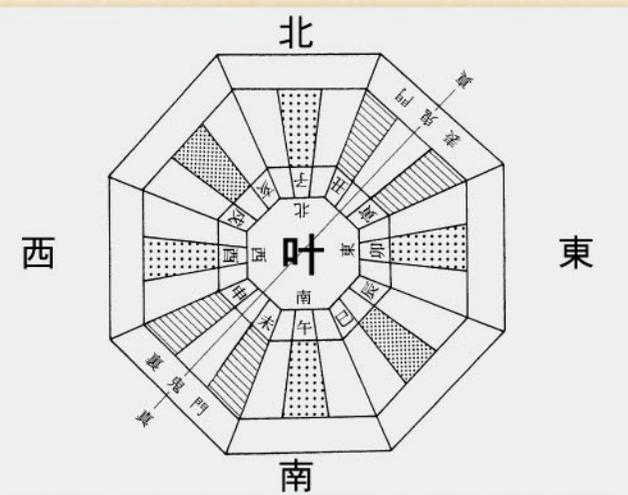


御社殿参拝足元に十方招福



高森神社の御神徳と十方のお力と天と地の力が戴けますように清らかな気持ちで叶う（五本の指と五本の指を合わせて十です。それを口元にもってきて叶う）文字の上に立って参拝しましょう。先ず心を落ち着かせ、両手で鈴を鳴らし、二拝二拍手、合掌の姿で願いことを述べ深く一礼してお下がりください。

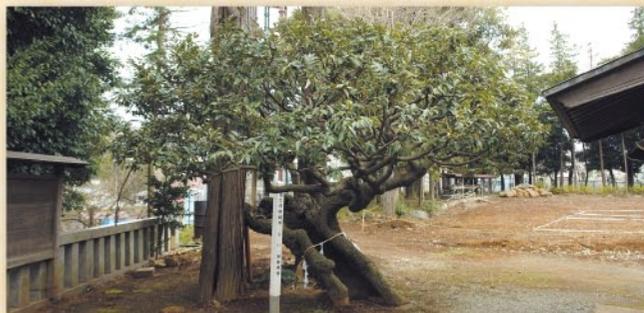
案内図



〒259-1114 神奈川県伊勢原市高森527
TEL 0463(93)8208

御神木

高森神社御神木(しいの木)として崇められ樹齢一千年以上経っているものといわれています。



石碑



福神龍 天に昇る龍のお姿です
焼失後出現しました。

御本殿改築二十周年記念事業として復元。
当社が式内社であった事を証明する石碑であります。
表側 郷社 高森神社 裏側 延喜式内社
高部屋神社 嘉永三庚戌歳八月

地藏堂



諸病平癒、安産、子育ての守護神
平成14年9月吉日御堂造されました。

社務所



高森神社の神符、守札、おみくじなど授与品を領けしています。



どなたでもご参列いただけます。(遷座式様姿
平成22年12月6日)

年間神事

- 元旦祭 1月1日
- 祈年祭 2月 第2日曜日
- 例大祭 4月 第2日曜日
- 吾妻神社・八坂神社大祭 7月 第2日曜日
- 夏越大祓い
- 感謝祭 12月 第2日曜日
- 年越大祓い

相模の国 高森神社

日本国土づくりの御祭神





御社殿御造営の由緒

御社殿は平成22年11月吉日に御造営されました。神社創建は不祥であります。元々は戦国時代末期に改築され、その後焼失したために享保元年(1716年)に復興されたようでありました。その物証として、御社殿の老朽化に於いて、昭和53年2月11日高部屋根葺き替え工事に当たり、棟木に記されていた記録により明らかになったことが挙げられます。また、内陣には「高部屋神社」とも記されておりました。

その後、昭和53年5月14日、旧幣殿、拜殿、神饌所等が改築され、多くの崇拝を仰いでまいりましたが、31年目を迎えた平成21年2月3日早朝3時30分頃、不審火により御社殿を始め、八坂神社、授与所等が全焼致しました。役員を始め氏子各位共々、心痛な思いながらも力を結束し、復興の御造営を迎えたのであります。その後は末永く氏子崇敬者の心の拠り所として此処に鎮座いたしております。

御本殿

御祭神 味須岐高彦根命

高彦根命は瑞穂の国と云われる日本に稲作文化を広めた加茂族の首長でありました。天照大御神が大国主命に国土を譲渡するようにと天稚彦を遣わした時、和合を持って平和に徹した神であり大和の葛城に鎮座されたのであります。御祭神は大変権威の高い神であるため、天照大御神と呼称されるように味須岐高彦根命も大御神とされています。弥生中期、水稲耕作が始まった頃、加茂族の首長高彦根命は事代主命と共に国造りに大変活躍されました。神話に於いて、国造りに際しては謙譲の精神を持って接した御神徳の高い御祭神であります。農耕にあたっては、鉄器を持って新しい殖産を始め日本国土造りの中心人物神として尊崇を受けたのであります。五穀豊穰 平和の神 家内安全の神として、又縁結びの御神徳として深く崇敬されています。高森神社は明治初年まで高部屋神社とも称されていたようでありました。其の物証は棟木や内陣に書いてあったことや鳥居脇の石碑にもその様に刻まれていることの物証、明治初年、神仏分離令のあり、社名を高森神社と改称されたと伝えられています。延喜式内にある高部屋神社は、おそらくこの本社のことを指しているものと思われま。

洗心処



参拝の前には、手水を済ませ身を清めてからお参りしましょう

〔手水の作法〕

柄杓を右手に取り、まず、左手を清めます。柄杓を左手に持ち替えて、右手を清めます。再び、柄杓を右手に取り、左手に水を受け口をゆすぎます。もう一度左手を清めます。最後に柄杓を立てて、残った水で柄をすすぎ元の位置に戻します。

合祀神

建速須佐之男命

昔より京都八坂神社の神霊が境内に祀られていました。北高森、前高森、小金塚の三高森の守護神として天王様と愛称され「疫病神」仰ぎ崇められておりました。特に悪病消除の靈験あらたかな神として信仰を深めています。疫病神として崇めることで、病から免れ軽く済むと考えられて信仰されました。稲作文化が始まった頃は、天地自然を神としており、天変地異や病気である天然痘「疱瘡」等の災厄は神の祟りと考えられていたのです。御神徳 病気平癒 魔除け。

御神鐘



元禄9年鑄造されました、高森神社の御名鐘は祈願鐘として永く氏子に親しまれてまいりましたが、昭和16年大東亜戦争のため供出、以来ふたたびこの社にもどらず、昭和53年4月9日に平和の鐘として復元され、翌月15日に初打ちが行われました。鐘に刻まれている鐘銘も元禄9年に鑄造されたものと同様に復元されました。

「神は何もいません、心より参拝し、鐘をつくことにより、その響きの清らかさによって、世の間は明るくなり、人々に幸福を与えて下さる」と言う意味の言葉が刻まれてあります。